



CONTENTS

土砂災害防止「全国の集い」in富山	1
令和5年度(第41回)土砂災害防止 「全国の集い」in富山	2,3
おらっちゃんの砂防 富山市の砂防事業について	4
令和4年度 土砂災害防止に関する作品募集 入賞者決定	4
後進に告ぐ	5
国際防災学会インタープリバント2023台湾における 立山砂防のPR	6
国際協力:ホンジュラス共和国技術職員への 斜面災害対策研修	6
「全国治水砂防協会通常総会」が開催される	6
令和5年度 富山県砂防関係事業の概要	7
富山県砂防課の最近の動き	7
立山カルデラ砂防博物館ニュース	8

写真の解説

土砂災害防止「全国の集い」in富山

土砂災害防止月間の主要行事として、昭和58年度以降、全国各地で開催されてきた土砂災害防止「全国の集い」第41回大会を、富山県と国土交通省の共催により、令和5年6月、富山県内で開催しました。

会場には、来賓の皆様をはじめ全国から約800名の方々にご出席頂き、吉岡幹夫国土交通省技監の主催者挨拶、新田八朗富山県知事の開催地挨拶(=上記写真)等による開会式典に引き続き、京都大学防災研究所の中北英一所長による基調講演、「治水分県・富山で考える土砂災害対策～立山の砂防 120年とこれから～」をテーマとしたパネルディスカッションなどが行われました。

(関連記事=P2～P3)

令和5年度(第41回)土砂災害防止「全国の集い」in富山

令和5年度土砂災害防止「全国の集い」第41回大会を、6月1日、2日に富山国際会議場を主会場として、富山県と国土交通省の共催により開催しました。

今回の集いは、地域の安全を確保する砂防の役割・大切さを全国に発信し、土砂災害に対する全国の防災力の向上を目的に、「治水分県・富山で考える土砂災害対策～立山の砂防 120年とこれから～」をテーマとして開催しました。また、本集いと併せて、連携行事として「富山県砂防工事施工技術等連絡会」、「砂防ボランティア全国をつどい」を開催しました。

式典には、来賓の皆様をはじめ約800名の方々にご出席頂きました。吉岡幹夫国土交通省技監の主催者挨拶に続き、新田八朗富山県知事による開催地挨拶、美濃部雄人富山市副市長による歓迎の挨拶、綿貫民輔全国治水砂防協会常任顧問からのメッセージを頂きました。

土砂災害防止功労者表彰では、吉岡国土交通省技監から伊東尚志前富山県治水砂防協会長(前上市町長)はじめ7名、3団体に表彰状が授与されました。



主催者挨拶 吉岡幹夫国土交通省技監



開催地挨拶 新田八朗富山県知事



歓迎挨拶 美濃部雄人富山市副市長



土砂災害防止功労者表彰を受賞された皆様



土砂災害防止功労者表彰(国土交通大臣表彰)伊東前上市町長

基調講演



基調講演
京都大学防災研究所所長
中北 英一 教授

基調講演では、京都大学防災研究所所長の中北英一教授を迎え、「気候変動による豪雨災害への影響」というテーマでご講演を頂きました。豪雨や水災害に関して今後どのような将来変化が予測されるかについてご紹介頂くとともに、流域治水等を事例として、気候研究・防災研究と行政が連携した気候変動への適応の重要性についてご講演頂きました。



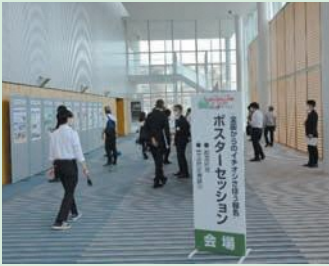
パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、NHK松本浩司解説主幹をコーディネーターに迎え、「治水分県・富山で考える土砂災害対策～立山の砂防120年とこれから～」をテーマにパネルディスカッション（四部構成）を行いました。

- パネリスト** 小山内信智（政策研究大学院大学教授）
 松島 吉信（富山県文化財アドバイザー）
 尾畑 納子（立山砂防女性サロンの会会長）
 林 真一郎（富山県土木部参事・砂防課長）
- コメンテーター** 三上 幸三（国土交通省砂防部長）



全国からのイチオシさぼう報告



ポスターセッション

会場ホワイエでは、「全国からのイチオシさぼう報告」と題しポスターセッションを開催しました。全国の国土交通省の直轄砂防事務所の32枚、都道府県の40枚のポスターの展示を行い、北陸地方整備局から立山砂防事務所の事業紹介および「北陸の砂防応援団」の紹介を、富山県ブースでは、ハード・ソフト対策の取組を紹介しました。また、立山砂防事務所と連携し、立山カルデラや白岩砂防堰堤の空撮動画のモニターやVRによる視聴を行える体験コーナーも設置しました。



VRによる空撮動画の視聴

現地研修会

翌日の2日には、3コース（①黒部川コース、②常願寺川コース、③南砺市コース）の現地研修会を実施しました。大雨による通行規制等が想定されたため、予定していた行程を変更しての実施となりましたが、58名の方に富山県内の代表的な砂防事業をご覧頂きました。



現地研修会（黒部川コース、黒部川・権蔵橋）



現地研修会（常願寺川コース、大場の大転石）



現地研修会（南砺市コース、城端地域・池川）

富山県では、引き続き、今大会のテーマとなった 立山砂防の世界文化遺産登録に向けた活動を推進して参りますので、関係の皆様のご継続的な力強いご支援をお願い申し上げます。終わりに今大会の開催にあたり、ご多忙のなか、ご来賓の皆様をはじめ、県内外から多くの関係者の皆様にご参加いただき盛大に開催することができましたことをこの場を借りて心から厚く御礼申し上げます。

砂防工事施工技術等連絡会



開会あいさつ 金谷富山県土木部次長



講演 国土交通省砂防保全課 吉野土砂災害対策室長

砂防ボランティア全国のつどい



砂防ボランティア活動等功労者表彰



来賓挨拶
（三上国土交通省砂防部長）

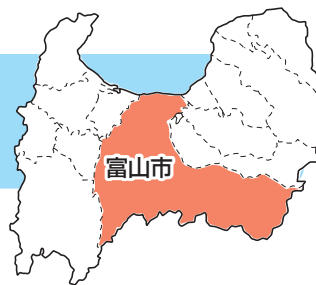


閉会挨拶（南砺富山県砂防ボランティア協会会長）



富山市の砂防事業について

富山市建設部河川整備課 二俣 智志



富山市は、県の中央から南東部に位置し、北には富山湾、東には立山連峰をはじめとする山岳地帯、西には丘陵・山地が連なり、南には田園や森林が広がる自然豊かな地域です。市域の約7割が丘陵・山岳地帯であることから、土石流や急傾斜地の崩壊、地すべりに関する土砂災害警戒区域は県内で最も多い1,328箇所が指定されており、そのうち土砂災害特別警戒区域は1,027箇所となっています。

近年は、全国各地で台風や集中豪雨などによる土砂災害が相次いでおり、多数の尊い人命や貴重な財産が失われています。こうした災害から市民を守り、安全で安心して暮らせる生活環境を実現するためには、土砂災害防止施設などのハード対策に加え、速やかな住民避難に向けたソフト対策の充実がますます重要となっています。

このような中、本市では、ハード対策として、現在、富山県急傾斜地崩壊対策補助金を活用して、山本地内において平成28年度から急傾斜地崩壊防止対策工事を実施しています。また、直近5箇年(H30～R4)では、婦中地域、富山地域の計2箇所において、対策工事を完了しました。

一方、ソフト対策として、平成18年度から平成25年度にかけて土砂災害ハザードマップを作成しましたが、土砂災害ハザード

ドマップ作成ガイドラインの改定や災害対策基本法の改正などを踏まえ、令和4年7月にこれまでのハザードマップを見直し、「避難経路の位置等」の記載や、国が示した新たな警戒レベルの表記を追加するなどの更新を行っています。また、平時から市民の皆さんにハザードマップを活用していただくため、対象世帯に配布するとともに、出前講座等を通じて、周知・啓発に努めています。

今後も、こうした対策を推進することより、災害に強い安全・安心なまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

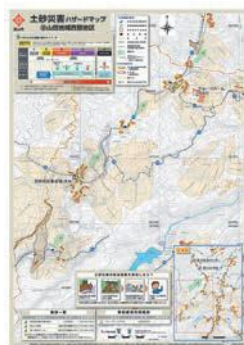


図1 山田地域西部地区詳細図



図2 富山市土砂災害HM情報面

令和4年度 土砂災害防止に関する作品募集 入賞者決定

土砂災害に対する理解と関心を深めるため、土砂災害防止月間(令和4年6月1日～6月30日)の行事の一環として、県内の小・中学生を対象に「土砂災害防止に関する絵画・作文」を募集したところ、計89点(絵画61点、作文28点)のご応募をいただきありがとうございました。ご応募いただいた作品を審査した結果、下記9名のみなさんが受賞されました。

令和5年度も同様に募集しておりますので(令和5年6月1日～9月15日)、たくさんの作品をお待ちしております。

国土交通省表彰

優秀賞(事務次官賞)

射水市立大門中学校
2年 二上 凛



1 国土交通省表彰

(敬称略 学校・学年は応募時)

1) 優秀賞(事務次官賞)

絵画(中学生)の部: 射水市立大門中学校 2年 二上 凛
作文(小学生)の部: 氷見市立比美乃江小学校 3年 田岸 奏人

2 富山県表彰

1) 富山県土木部長賞

絵画(小学生)の部: 南砺市立井波小学校 3年 中山 彩実
絵画(中学生)の部: 高岡市立志貴野中学校 2年 山崎 萌々花
作文(小学生)の部: 立山町立立山中央小学校 3年 山内 咲和
作文(中学生)の部: 高岡市立高岡西部中学校 3年 永原 章久

2) 富山県治水砂防協会長賞

絵画(小学生)の部: 南砺市立井波小学校 5年 澤山 叶芽
絵画(中学生)の部: 射水市立大門中学校 2年 藤井 綾乃
作文(小学生)の部: 氷見市立比美乃江小学校 6年 山田 龍斗
作文(中学生)の部: 該当者なし



南砺市立井波小学校
5年 澤山 叶芽



射水市立大門中学校
2年 藤井 綾乃

富山県表彰

富山県治水砂防協会長賞

富山県表彰

富山県土木部長賞



南砺市立井波小学校
3年 中山 彩実



高岡市立志貴野中学校
2年 山崎 萌々花



1 はじめに

平成のはじめ頃、高岡土木事務所時代に地すべり事業に携わったのが最初の砂防でした。こういうふうには調査し、対策工の設計をするのかと、いろいろ勉強をさせてもらいました。砂防課には平成10年4月から4年間勤務し、その後3年ほどして氷見土木の砂防班長を2年間勤め、砂防には多くのことを学ばせてもらっています。

「とやまの砂防」の「後進へ告ぐ」の原稿を依頼され、何を書こうかと考えめぐねた結果、今も何かと関わりがある砂防、という切り口でまとめることにしました。

2 土砂災害防止法

砂防課というところは、たぶん今もそうだと思いますが、少ない人数でハード事業、ソフト施策を切り回しているのが大変忙しい。そんな中、平成11年に発生した広島豪雨災害を機に、平成12年5月、土砂災害防止法が公布されました。この法律を契機にそれまで以上にソフト対策を重視する方向になっていったように思います。

ソフト対策＝警戒避難対策において必要となる情報は、土砂災害が「いつ」「どこで」発生するか、になります。この法律によってその情報を行政で発信することの位置付けが明確になり、いろいろ取り組みが進められてきました。

3 基礎調査とイエローレッド

平成13年4月から土砂災害防止法が施行ということで、そうすると基礎調査を始めなければならないということでした。その時までには何をどうすればいいのかわからず、砂防課時代は基礎調査実施に向けて手探りで準備作業をしていました。

その後、数年して氷見土木へ行きました。基礎調査がこれから最盛期を迎えようとしているときでした。私自身も警戒区域等の指定に向けて、何回も地元へ説明に行った記憶があります。

この警戒区域、基本的な範囲の設定は、ほぼ地形条件だけで決めて、ここは危険だよと公表します。さらにレッドになるといういろいろな制限をかけます。これまでの土砂災害危険箇所とどう違うのかわかってもらえるかな、紛糾しないかな、などと考えながら説明に出かけていたように思います。

それからおよそ十数年、富山県では基礎調査をひととおり終え、土砂災害警戒区域等の指定も進み、「どこで」が明らかにされてきました。

ホームページでは全国のイエローレッドが、「重ねるハザードマップ」として公開されており、たいへん見やすくなっています。

現在、基礎調査は次のステップに入っていて、今の会社でその業務に携わらせてもらいました。これまでに取りこぼしてきた箇所はないか、という抽出調査になります。その作業では、GISソフトに、3次元点群データを読みこませ、地形条件に合致するところを出力させる、という方法が用いられています。これも時代の進歩を感じています。

4 雨量情報とスネークライン

もう一つの情報「いつ」です。砂防課当時、山間部に雨量計

を設置し、河川サイドで先行していたシステムと合流する形で、初代「富山県雨量水位情報」システムが整備され、ホームページで公開しています。土砂災害発生を予測するスネークラインなるものもあわせて掲載しています。

あれから十数年。雨量水位情報は全国の関係機関の情報が統合されて見やすくなり、スネークラインは気象庁の短時間降雨予測と連携して「富山県土砂災害警戒情報支援システム」となりました。かなりクオリティが高くなっています。

この支援システムによって、富山県と富山地方气象台が共同で、「土砂災害警戒情報」を発表しています。当時のスネークラインからすると、ここまで来たかとただ感心しています。

5 砂防ボランティア協会での活動

「いつ」「どこで」という情報がそろってきました。その情報を組み合わせて、避難のタイミングを判断するのは、最終的にはそこに住んでいる住民の方々になります。土砂災害のことやこうした情報のことを知ってもらうことがたいせつです。

今年富山県で土砂災害防止「全国の集い」が開催されるなど、土砂災害防止月間にあわせ、いろいろ啓発活動が進められています。また、近年の頻発する自然災害もあって、テレビ等のメディアでは「土砂災害」が取り上げられることが多くなっています。

微力ではありますが、私も現在砂防ボランティア協会として、子供砂防教室のお手伝いや立山カルデラ砂防体験学習会での解説員などの活動に参加しています。

今年の石動小学校子供砂防教室では、砂防ボランティア協会手作りの地すべり模型を用いて、生徒たちに実験してもらいました。かなり好評だったと思います。

この子供砂防教室は、土砂災害への啓蒙活動としてはもちろんですが、建設業に興味を持ってもらうということにもつながるのでは、とか思いながら、楽しんで参加しています。



令和5年度石動小学校子供砂防教室 地すべり模型で実験中

6 おわりに

現役時代に、いろいろ悩みながら取り組んでいたことが引き継がれ、着実に成果となっています。それが当時予想もしなかった形に進歩して、現在に至っているとも感じています。

砂防への関わりは砂防ボランティア協会だけではなく、今の会社の業務で関わることもあります。ただ、自分の現役時代と今とでは、設計の考え方や指針などで変わっているところが少なからずあって、時折過去の経験が邪魔をすることがあります。変な思い込みや的外れなことを言うことがあるかもしれませんが、その時は容赦なく指摘してください。

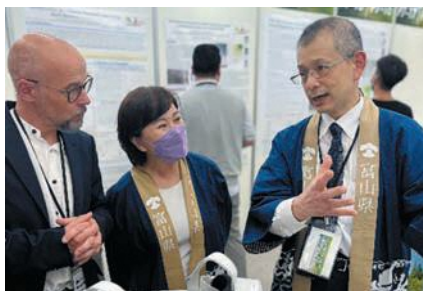
またどこかでお会いしましょう。

国際防災学会インタープリメント2023台湾における立山砂防のPR

令和5年4月17日(月)～21日(金)に、台湾・台中市で開催された防災に関する総合的な国際学会「インタープリメント2023」に参加し、世界に誇れる防災遺産・立山砂防の顕著な普遍的価値を世界の人々にアピールしました。

学会には、16の国と地域から約200名が参加し、インタープリメント幹部や研究者・専門家に、ポスター発表やVR動画等を用いて直接説明することができ、有意義な機会となりました。

白岩砂防堰堤や立山カルデラの空撮によるVR動画への関心が特に高く、多くの参加者に体験して頂きました。立山砂防の技術的な困難さ、広大なスケール等を分かりやすく伝えることができ、驚きや素晴らしいといった反応が多くありました。



学会長へ立山砂防の価値について説明する市井土木部長
(ノルベルト・セレニツグ氏：オーストリア)



立山砂防のVR体験
(クルト・ローナー前学会長)

国際協力：ホンジュラス共和国技術職員への斜面災害対策研修

令和5年5月15日(月)～17日(水)に、ホンジュラス共和国技術職員14名に富山県の斜面災害対策を紹介する研修を実施いたしました。

本研修はJICAによる国際協力事業の一環で、近年斜面災害が頻発しているホンジュラス首都テグシガルパ市土木職員等が、日本の斜面災害対策を現地学習し技術力の向上を図るもので、人口規模や土地利用状況に共通点が見られる富山県が研修先選ばれました。

座学及び現場視察(魚津市、氷見市、富山市、立山町)を行ったところ、研修生の方々は熱心に質問をされたり写真を撮られたりと、真剣に学んでおられました。

研修の様子はNHK富山放送局、富山新聞等、メディアでも取り上げられました。



座学の様子(講師：砂防課林参事)



現場視察(砂防事業:立山町雑穀谷)



現場視察(急傾斜地崩壊対策事業:富山市八尾町青根)

「全国治水砂防協会通常総会」が開催される

令和5年5月25日(木)、砂防会館別館シェンバツハ・サボー「利根」において、89名の衆・参両院の国会議員並びに全国の市町村長など、全体で1,000名超の方々のご出席により「全国治水砂防協会令和5年度通常総会(第87回)」が開催されました。富山県からも富山県治水砂防協会副会長の林氷見市長、夏野砺波市長、中川上市町長、舟橋立山町長、高尾富山市建設部次長及び富山県議会砂防事業促進議員連盟副会長の菅沢県議会議員の6名の会員及び賛助会員が出席しました。

総会では、森山会長の挨拶、吉岡国土交通省技監からの祝辞のあと、議事に入り、令和4年度事業報告・収支決算審議、令和5年度事業計画報告・収支予算報告及び役員選任等審議案件については原案どおり満場一致で承認されました。

次に、国土交通省三上砂防部長より「被災地の近況とこれからの砂防」と題した講演がありました。



全国治水砂防協会通常総会

令和5年度 富山県砂防関係事業の概要

令和5年度砂防関係事業費

令和5年度の富山県砂防関係事業当初予算は、前年度より3億4,800万円減（▲5.2%）となる総額63億5,900万円となりました。

なお、国土強靱化のための5か年加速化対策や労務資材価格の高騰対策として、令和4年度補正予算を合わせた15ヶ月予算では、総額82億9,300万円を確保し、県民の「安全・安心」確保のための土砂災害対策を計画的・重点的に推進してまいります。

区分	R5 当初予算 (千円)	R4 当初予算 (千円)	率 R5/R4	備考
一般公共事業 (災害含む)	4,267,000	4,276,000	99.8%	補助事業 交付金事業
主要県単事業	442,000	399,000	117.4%	砂防改良、砂防維持修繕 小規模急傾斜補助
直轄砂防事業負担金	1,650,000	2,032,000	81.2%	立山、黒部川水系、 神通川水系直轄砂防
合計 (直轄負担金除く)	6,359,000 (4,709,000)	6,707,000 (4,675,000)	94.8% (100.7%)	

県民の「安全・安心」確保のための土砂災害対策の推進

(1) 砂防総合交付金事業及び砂防関係施設整備事業による土砂災害防止施設の整備

砂防事業	小矢部川水系池川【南砺市】等 50箇所
地すべり対策事業	胡桃地区【氷見市】等 17箇所
急傾斜地崩壊対策事業	本江(2)地区【滑川市】等13箇所
雪崩対策事業	上ヶ島地区【富山市】1箇所

(2) 砂防施設の老朽化対策

富山県砂防関係施設長寿命化計画に基づき、補助事業の「砂防メンテナンス事業」を活用し計画的・集中的に老朽化対策を推進

(3) 円滑な警戒避難のための支援

土砂災害危険箇所の周知

土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等の指定の推進
市町村が実施する土砂災害ハザードマップ作製など警戒避難体制の整備について支援

土砂災害情報の提供

警戒避難を支援する土砂災害警戒情報の充実

土砂災害の警戒避難体制等の整備

要配慮者利用施設の避難確保計画作成支援、防災講習会、防災訓練などによる
防災リーダーの育成、住民の防災意識の向上

防災・減災、国土強靱化のための 5ヶ年加速化対策予算の活用事例



砂防事業 小矢部川水系蓑谷



急傾斜地崩壊対策事業 栃津地区

立山砂防の世界文化遺産登録に向けた取り組み

■Tateyama SABO国際的認知向上事業

世界遺産登録に向けて立山砂防の顕著な普遍的価値を世界に発信するため、来年度開催予定の国際防災学会で発表する論文を作成

■立山カルデラ砂防体験学習会

体験学習会としてトロッコ等による団体・個人コースを実施し、安政大災害やこれまでの防災の歴史や取り組みを、県民等に伝えるための啓発活動を行う

富山県砂防課の最近の動き

令和5年5月26日に砂防事業担当者会議を開催し、市町村、土木センター・事務所の職員など、59名に参加いただきました。会議では、例年行っている防災業務に係る説明に加え、富山地方気象台から「令和4年の土砂災害警戒情報の検証結果、顕著な大雨に関する気象情報の運用」についてのご講演、直轄砂防事務所から最近の砂防事業についてご紹介いただきました。

また、令和5年6月8日に県、気象台、市町村、消防本部等の関係機関合同で、土砂災害警戒情報発表時を想定した情報伝達訓練を実施しました。土砂災害警戒情報支援システムから各機関にFAX等で発表文が自動送信され、着信確認、市町村への避難指示等の対応のお願い等を本番さながらの緊張感を持って行いました。



情報伝達訓練

富山県 立山カルデラ砂防博物館ニュース

「立山や立山カルデラの自然や歴史、そこで行われている砂防」をテーマに様々な企画、展示を行っています。

★申し込み、詳細については博物館までお電話ください。 TEL. 076-481-1363 (学芸課)

□今後の企画展・特別展のご案内 (観覧料：無料)

◆企画展「歪み動く大地」

開催期間：7月22日(土)～9月24日(日)

大地に働く僅かな歪みは長い時間を経て山脈や丘陵を生み、郷土の独特な風土とともに災いをもたらしてきました。馴染み深い郷土の景観や暮らしの中にも見え隠れする、歪む大地の営みを紹介します。

◆特別展「写真でみる立山の地形」

開催期間：10月3日(火)～12月17日(日)

立山黒部アルペンルートの車窓から見ることができる河川地形、火山地形、氷河地形など様々な地形について多数の写真で紹介します。



企画展「歪み動く大地」

□野外体験イベントのご案内

◆立山カルデラ砂防体験学習会

開催日：7月5日～10月13日 水・木・金(全41回)

定員：各回 28名～40名 ※要事前申込

普段立ち入ることができない立山カルデラを訪ね自然や歴史、砂防について体感します。博物館のホームページ、もしくは「応募のてびき」の申込み専用はがきにてお申込みください。小学3年以上(小・中学生は保護者同伴)

問い合わせ：TEL 076-481-1363 (体験学習会の係)



◆フィールドウォッチング

学芸員の解説で立山の自然や歴史、砂防について現地で体感してみませんか？

小学3年以上(小・中学生は保護者同伴)

「立山の氷河眺望」 8月27日(日)

「室堂山とカルデラ展望」 9月3日(日)

「弥陀ヶ原とカルデラ展望」 10月1日(日)

「秋の有峰と常願寺川砂防治水探訪」 10月20日(金)

問い合わせ・申し込み：

一般社団法人 地域・観光マネジメントまで電話にてお申し込みください

TEL 076-471-6103 (先着順)

受付開始日はコースによって異なります。HP「北陸探訪」や電話にてご確認ください。



FW「弥陀ヶ原とカルデラ展望」



HP「北陸探訪」→

立山カルデラ 砂防博物館の 開館案内

開館時間：9:30～17:00(入館は16:30まで)。*夏休み期間7/15～8/31、9月10月の連休は9:00開館

休館日：月曜日(祝日除く) 祝日の翌日(土・日曜日除く)、年末・年始(12/28～1/4)

観覧料：立山カルデラ展示室・大型映像の観覧料として一般400円(70歳以上無料、年齢の確認できるものを持参ください)、大学生以下無料、企画展示室・SABO展示室は無料

所在地：〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺字ブナ坂68

TEL 076-481-1160/FAX 076-482-9100/ホームページ <http://www.tatecal.or.jp/>

富山県治水砂防協会

〒930-8501 富山市新総曲輪 1-7 富山県庁砂防課内 076-444-3341 <https://www.pref.toyama.jp/1505/bousaiizen/toyamanosabo.html>